

た潰瘍性大腸炎疾患に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究—HAYABUSA study—」

インフリキシマブ (IFX) 治療によって 24 週から 4

8 週間寛解が維持され、ステロイドの離脱 (ステロイドフリー) および粘膜治癒を達成している日本人の UC 患者を対象として、IFX 治療中止もしくは継続の割り付けを行い、2 群間の 48 週後の寛解維持率を比較検討し、IFX 治療中止の妥当性および IFX 治療を中止できる症例と維持が必要な症例の患者プロファイルを明らかにする。

(倫理面への配慮)

前述の 2 つの研究に関しては、いずれも参加施設の倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

いずれの臨床研究も 2015 年 1 月現在結果は未公表であるが、進捗状況は以下の通りである。

①「インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎疾患に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究—HAYABUSA study—」

IFX 開始後割り付け前の治療期間が 24 から 48 週という制限があったが、治療期間も解析因子とする目的で、期間の制限を解除するプロトコル改訂を行った結果、登録が増加し、現在目標症例数 200 例 (IFX 治療継続群 100 例、IFX 治療中止群 100 例) のうち 2016 年 1 月 15 日現在 9 施設から 34 症例の登録が得られた。継続的に登録促進への努力を継続している。

②「投与開始超早期の血中濃度測定を利用した潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブ寛解導入効果予測の試み—ULTIMATE study—」

研究組織の構築とプロトコル作成を行い、現在研究開始準備中である。便中 IFX 濃度測定系の validation が終了すれば、参加予定施設数 10 施設、目標症例数 50 例の予定で開始予定である。

D. 考察

現在登録募集中もしくは、研究開始準備中であり、結果につながるものは今のところまだ得られていない。

E. 結論

UC に対するより適切な生物学的製剤を使用した治療戦略の構築に向けての臨床研究を行っている。適切な効果判定とそれに基づいた継続あるいは中止の判断は、生物学的製剤治療を最大限に活用するために必須だと考えられる。本臨床研究の結果は、個別化と最適化に向けた質の高いエビデンスを世界に向けて発信できると考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Kobayashi T, Suzuki Y, Motoya S, Hirai F, Ogata H, Ito H, Sato N, Osaki K, Watanabe M, Hibi T. First trough level of infliximab at week 2 predicts future outcomes of induction therapy in ulcerative colitis—results from a multicenter prospective randomized controlled trial and its post-hoc analysis. J

Gastroenterol 2015 Epub Ahead of Print.

2. 小林拓、中野雅、日比紀文 内科疾患の診断基準・病型分類・重症度 第 2 章消化器 「炎症性腸疾患」内科 2015 115(6) 565-568

3. 小林拓、中野雅、日比紀文 内科プライマリケアのための消化器診療 Update 小腸・大腸疾患 「潰瘍性大腸炎」Medicina 2015 52(10) 1714-1716

4. 小林拓 「マレーシアにおける IBD の現状と課題」IBD Research 2015 9(3) 24-25

5. 小林拓 「ステロイド抵抗例の次の一手」羊土社(東京) IBD 治療薬の選び方・使い方 p145-153

6. 小林拓、豊永貴彦、齊藤詠子、中野雅、日比紀文 「IBD チーム医療における医師(消化器医)の役割」IBD Research 2015 9(4) 6-10

7. 小林拓 「抗 TNF α 抗体製剤二次無効に対する

対応」IBDを日常診療で診る 羊土社（東京）

8. 加藤 裕佳子(北里大学北里研究所病院 消化器内科), 芹澤 宏, 梅田 智子, 中野 雅, 小林 拓, 清水 清香, 常松 令, 渡辺 憲明, 土本 寛二 経皮内視鏡的胃瘻造設術に関する意識調査からみた適応判断の問題点(原著論文) 在宅医療と内視鏡治療 2015 19(1)70-77
9. 小林 拓(北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター), 中野 雅, 日比 紀文 【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】(第2章)消化器 炎症性腸疾患(解説/特集) 内科 115(6) 956-959
10. 日比紀文、久松理一、小林 拓、中野 雅、井上 詠 腸管ベーチェット病と単純性潰瘍の診断法や治療法は確立したか? 分子消化器病 12 (1) 43-48
11. 日比 紀文、小林 拓、中野 雅、渡辺 憲明 腸疾患-病態研究から標的治療への展開-日本から世界に発信する新しい診断・治療 炎症性最新醫學 270 (2) 106-111
2. 学会発表
1. Kobayashi T et al. Usefulness of fecal S100A12 in defining mucosal healing in ulcerative colitis. ECCO2015, Barcelona, Spain, Feb 20 2015
2. Kobayashi T et al. Usefulness of fecal S100A12 in defining mucosal healing in ulcerative colitis. 3rd AOCC, Beijing, China, June 20, 2015
3. Kobayashi T et al. First trough level of infliximab at week 2 predicts future outcomes of induction therapy in ulcerative colitis-A post-hoc analysis of a multicenter prospective randomized controlled trial (Plenary session). Honolulu, Hawaii, USA. Oct 20, 2015
4. 小林拓、中野雅、日比紀文 ワークショップ 2「粘膜治癒を目指した炎症性腸疾患の診療」潰瘍性大腸炎粘膜治癒評価における便中 S100A12 の有用性 第11回日本消化管学会 2015.2.1 (東京)

5. 小林拓、中野雅、石橋とよみ、梅田智子、芹澤宏、渡辺憲明、日比紀文 潰瘍性大腸炎入院治療における禁食腸管安静の意義 第101回日本消化器病学会総会 2015.4.24 (仙台)
6. 小林拓、中野雅、日比紀文 大腸内視鏡と便中バイオマーカーS100A12を組み合わせた潰瘍性大腸炎の治療戦略 第89回日本消化器内視鏡学会 2015.5.29 (名古屋)
7. 小林拓「臨床免疫学的アプローチから見た炎症性腸疾患感受性遺伝子」ワークショップ3 第43回日本臨床免疫学会総会 2015.10.22 (神戸)
8. 小林拓、中野雅、日比紀文 ワークショップ「大腸肛門病診療における多職種チーム医療」炎症性腸疾患診療におけるチーム医療の意義と取り組み 第70回日本大腸肛門病学会 2015.11.13 (名古屋)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

CAP 治療効果予測因子としての温感の意義に関する研究

研究協力者 飯塚 政弘 秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター 所長

研究要旨：潰瘍性大腸炎(UC)難治例を対象に、血球成分除去療法(CAP)治療効果予測因子として温感の有用性について検討した。その結果、CAP 施行中に温感が認められた場合の寛解率は 84.2%で温感が認められない場合の寛解率(39.3%)に比べて有意に高値で($p<0.01$)、CAP 施行時の温感の有無は CAP 治療効果予測因子として有用と考えられた。CAP 有効例では CAP 施行後皮膚温とともに皮膚灌流圧が上昇しており、温感・皮膚温の上昇に局所の血流量の増加が関与している可能性が示唆された。また、皮膚灌流圧の上昇は CAP の新たな可能性を示唆するものと考えられた。今後、本研究を多施設共同研究として行うべきか検討中である。

共同研究者

衛藤 武 (秋田赤十字病院消化器内科)
相良志穂 (秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター)
熊谷 誠 (秋田赤十字病院臨床工学課)

(倫理面への配慮)

本研究は当院倫理委員会で承認され、インフォームド Consent の下に行った。

A. 研究目的

われわれは潰瘍性大腸炎(UC)難治例に対する血球成分除去療法(CAP)の治療効果予測因子として CAP 治療時の温感の有用性を報告し、温感の生じるメカニズムとして皮膚血流量の増加の関与を報告した。本年度は症例をさらに追加して検討を行った。

B. 研究方法

2002 年 6 月～2015 年 11 月に CAP 治療を施行した UC 難治例のうち 47 例(85 回)において CAP 施行時の温感(手、足、腹部など)の有無による寛解率を検討した。また、このうち 11 例(15 回)にレーザー血流計(SensiLase(TM) PAD3000, カネカメディックス)で足背部の皮膚灌流圧を測定した。また、対照として透析患者 11 例、LDL-apheresis 施行例 1 例に対しても同様に皮膚灌流圧を測定した。

C. 研究結果

- ① CAP 施行中、手、腹部、足などに温感が認められた症例の寛解率は 84.2%で、温感が認められなかった症例の寛解率(39.3%)に比べて有意に高値を示した($p<0.01$)。
- ②足背皮膚灌流圧は、CAP 施行前(54.3mmHg)に比べ CAP 開始後上昇を示し、終了時には有意な上昇(73.5mmHg)を示した($p<0.01$)。また、CAP 有効例は無効例に比べ、灌流圧は上昇傾向を示した。一方、透析患者では透析開始前に比べて透析後足背皮膚灌流圧は低下を示し($p<0.01$)、LDL-apheresis 施行例では LDL-C の低下に伴い皮膚灌流圧の上昇を認めた。

D. 考察

CAP 施行時に温感を認めた症例の CAP 治療効果は、温感を認めなかった症例に比べて有意に優れており、これまでの検討にて実際に皮膚温の上昇も確認された。皮膚灌流圧は糖尿病や末梢血管障害患者の微小循環の指標に用いられており、今回

CAP 治療時の皮膚血流量の評価も皮膚灌流圧で行った。症例を追加した今回の検討でも CAP 施行後皮膚灌流圧が上昇を示したことより、CAP 施行時の温感や皮膚温上昇が生じる機序として局所の血流量増加が関与している可能性が示唆された。また、CAP による皮膚灌流圧(血流量)の上昇は、動脈硬化性疾患への治療応用など、CAP の新たな可能性を示唆するものとも考えられた。今後の課題として、本研究を多施設共同研究として行うべきか検討中である。

E. 結論

CAP 施行時の温感の有無は治療効果予測因子として有用と考えられた。温感・皮膚温の上昇が生じる機序として局所の血流量増加が関与している可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 飯塚 政弘、衛藤 武、相良 志穂、石井 透、相良 八木澤 仁. 潰瘍性大腸炎ステロイド依存例に対する Long-Interval CAP の治療効果の検討—長期治療成績も含めて—. 第 23 回日本消化器関連学会週間. 東京 (グランドプリンスホテル新高輪)、平成 27 年 10 月 10 日.

2. 飯塚 政弘、衛藤 武、相良 志穂. 潰瘍性大腸炎ステロイド依存例に対する CAP 治療方法に関する検討. 第 56 回日本消化器病学会大会. 神戸 (神戸国際展示場)、平成 26 年 10 月 23 日.

3. 飯塚 政弘、相良 志穂、衛藤 武. 潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法治療効果予測因子としての温感の意義とメカニズムについての検討. 第 55 回日本消化器病学会大会. 東京 (品川プリンスホテル). 平成 25 年 10 月 10 日.

4. 飯塚 政弘、衛藤 武、相良 志穂. 潰瘍性

大腸炎ステロイド依存難治例に対する Long-Interval CAP の治療効果に関する検討. 第 99 回日本消化器病学会総会. 鹿児島 (鹿児島県民交流センター)、平成 25 年 3 月 22 日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

潰瘍性大腸炎に対する青黛の有効性と安全性

研究協力者 鈴木 英雄 筑波大学医学医療系 准教授

研究要旨：既存の内科治療で改善がえられず、健康食品として販売されている青黛を服用した潰瘍性大腸炎患者 24 名を対象に、青黛の有効性と安全性を後ろ向きに調査した。青黛の疾患活動性に対する有効性は 79%であり、内視鏡的所見も改善が見られた。有害事象として頭痛(25%)と肝障害(4%)を認めたが、いずれも軽度であり減量により改善した。青黛は潰瘍性大腸炎に対する新たな治療の選択肢となる可能性が示唆されたが、真の有効性評価にはプラセボを用いた二重盲検試験が必須である。

共同研究者

金子 剛（筑波大学 医学医療系）

奈良坂 俊明（筑波大学 医学医療系）

松井 裕史（筑波大学 医学医療系）

溝上 裕士（筑波大学 医学医療系）

谷中 昭典（筑波大学 日立社会連携教育研究センター）

兵頭 一之介（筑波大学 医学医療系）

計解析は t 検定を用いた。

（倫理面への配慮）

筑波大学附属病院倫理審査会で観察研究として承認された。

C. 研究結果

CAI 値は服用前 6.3 ± 2.9 (mean $\pm$ SD) から服用後 1.1 ± 1.8 と有意に低下した ($p < 0.001$)。50%以上の CAI 値低下を有効と定義すると有効率は 79%であった。Matt's の内視鏡分類スコアは服用前 3.3 ± 0.5 (mean $\pm$ SD) から服用後 2.0 ± 0.6 と有意に低下した ($p = 0.01$)。

D. 考察

鍋谷らは潰瘍性大腸炎患者に青黛と桃黄湯を投与し、86%の患者に有効で、副作用は腹痛 5%、頭痛 2%、下痢 1%、蕁麻疹 1%、肝障害 1%であったと報告している。福永らは青黛を主成分とした錫類散(Xilei San) 坐薬を直腸炎型活動期潰瘍性大腸炎患者に投与し副作用なく 46%の寛解率を得たことを報告している。今回、我々は青黛のみでも高い有効性と安全性があることを確認したが、真の有効性評価にはプラセボを用いた二重盲検試験が必須である。

A. 研究目的

我々は生薬の 1 種である青黛の服用が有効であった潰瘍性大腸炎症例を複数例経験し、青黛にラジカル消去作用があることを報告した(World J Gastroenterol 2013)。今回はその後症例数が増えたものを加え、青黛の有効性と安全性についてまとめたので報告する。

B. 研究方法

対象は既存の内科治療で改善がえられず、健康食品として販売されている青黛を服用した潰瘍性大腸炎患者 24 名。内訳は男性 15 名、女性 9 名。年齢は 16 歳から 75 歳で、平均年齢は 39 歳。患者は自由意思で青黛を購入し 1 日 2g を服用した。服用前後の活動性評価(CAI)と身体的有害事象、血液検査異常、一部の症例は服用前後で Matt's の内視鏡所見分類スコアを後ろ向きに調査した。統

E. 結論

青黛は潰瘍性大腸炎に対して高い有効性を示した。有害事象として頭痛と肝障害を認めたが、いずれも軽度であり減量により改善した。青黛は潰瘍性大腸炎に対する新たな治療の選択肢となる可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

服用中は頭痛 6 例 (25%) と肝障害 1 例 (4%) がみられたが、いずれも軽度であり青黛の減量で回復した。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第 57 回 日本消化器病学会大会 2015 年
10 月 10 日 グランドプリンスホテル新高輪

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

マウスモデルを使用した腸炎における青黛の炎症修飾機序についての研究

研究協力者 吉田 優 神戸大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野
役職 准教授

研究要旨：青黛は、中国で抗炎症薬として使用される漢方薬で、潰瘍性大腸炎にも効果があると言われている。しかし、このような漢方薬が将来的に治療指針に組み込まれるためには、基礎研究によるエビデンスの蓄積と、臨床試験実施を通過しなければならない。そこで本研究では、腸炎モデルマウスを使用し、青黛の生体における効果とその機序を究明する基礎研究を行うことを目的とする。

共同研究者

足立聡一郎（神戸大学消化器内科）
大塚崇史（神戸大学消化器内科）
渡邊大輔（神戸大学消化器内科）
大井 充（神戸大学消化器内科）
星奈美子（神戸大学消化器内科）

腸炎を誘発／自然発症したマウスに青黛を経口投与し、腸炎の増悪・減弱が観察されるか検討した。

（倫理面への配慮）

神戸大学動物倫理委員会および、遺伝子組み換え実験安全委員会の承認を得た上、「神戸大学動物実験実施規則」ならびに「神戸大学遺伝子組み換え実験実施規則」を遵守し動物愛護の精神を持って研究が遂行された。

A. 研究目的

潰瘍性大腸炎で有効例があるとされる青黛は、日本でも一部の医師が使用しており、2013年にはその効果が論文発表された(Suzuki et al., *World J Gastroenterol* 2013)。ヒドロキシラジカルの除去作用がその一機序であることが示唆されているが、免疫学的作用等の検討は無く、炎症性腸疾患の多様な病態を考慮すると、使用対象を誤れば有害事象を引き起こす危険性もある。本研究では青黛の生体における免疫学的側面に着目した効果検討を行うことを目的とする。

B. 研究方法

腸炎のマウスモデルは多数存在しておりその発症機序・病態は様々であるため、本研究では下記に示す3つのモデルを使用した。

①オキサゾロン（OXZ）腸炎モデル②IL-10^{-/-}マウス③デキストラン硫酸ナトリウム（DSS）腸炎モデル

C. 研究結果

我々の予測に反し、②③のマウスモデルではコントロール群と比して腸炎レベルに変化を認めなかった。①のモデルにおいては明らかな炎症の増悪が観察された。特記すべきは、①のモデルではIL-4、IL-13が病態に重要とされているが、これらは上昇ではなく低下傾向を示していた。

D. 考察

あくまで動物モデルの結果のため、本結果から青黛がヒト潰瘍性大腸炎を増悪するとは全く言えない。むしろIL-13については潰瘍性大腸炎患者で上昇することが知られており、青黛がIL-13の低下を介して炎症を改善させる可能性はあるものと考えられる。しかし、状況によっては炎症を増悪させる危険性が示唆されたことから、その

機序など、更なる検討が必要と考えられる。

E. 結論

青黛は、動物モデルでは明らかな腸炎抑制作用を認めなかった。しかしサイトカインのプロファイルからは、潰瘍性大腸炎に効果を有する可能性は否定できない。本結果は、病態によっては炎症を増悪させる可能性を示唆しており、更なる慎重な検討が必要と考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

未発表

2. 学会発表

未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧表(書 籍)

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
Uchino Motoi, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Bando Toshihiro, Hirose Kei, Hida Nobuyuki, Nakamura Shiro	Prevention and prognosis	Kusunoki Masato	Colitis-Associated Cancer	Springer Japan KK	Tokyo	41-57	2015
<u>Ikeuchi Hiroki</u> , Uchino Motoi, Bando Toshihiro, Hirose Kei, Hida Nobuyuki, Nakamura Shiro	Surgical treatment for colorectal cancer in Crohn's disease	Kusunoki Masato	Colitis-Associated Cancer	Springer Japan KK	Tokyo	131-150	2015
内野 基, <u>池内浩基</u>	【治療薬の使い方 コツと落とし穴】 その他の治療 外科手術	小林 拓, 新崎信一郎	チェックリストでわかる！IBD 治療薬の選び方・使い方	羊土社	東京	116-121	2015
内野 基, <u>池内浩基</u>	【IBD 診断における問診・理学的所見の取り方のコツ・ピットフォール】 クローン病の増悪？それとも感染？(肛門周囲膿瘍, 腹腔内膿瘍)	久松理一, 矢野智則	実臨床に役立つ IBD 内視鏡－診断・モニタリング・サーベイランス	日本医学出版	東京	254-255	2015
内野 基, <u>池内浩基</u>	Crohn 病の原典	國土典宏	外科学の原典への招待	南江堂	東京	89-92	2015
Takanori Kanai, Yohei Mikami, Atsushi Hayashi	A breakthrough in probiotics: Clostridium butyricum regulates gut homeostasis and anti-inflammatory response in inflammatory bowel disease		The Japanese Society of Gastroenterology (第 50 巻 9 号)	J Gastroenterol	国内	928-39	2015
南木康作, 水野慎大, <u>金井隆典</u>	第 4 章 糞便微生物移植		腸内細菌・口腔細菌と全身疾患	シーエムシー出版	国内	234-241	2015
南木康作, <u>金井隆典</u>	炎症性腸疾患と腸内細菌叢の関わり		Medical Science Digest (第 41 巻 4 号)	ニューサイエンス	国内	14-17	2015
志波俊輔, 中本伸宏, 海老沼浩利, <u>金井隆典</u>	アルコールと消化管疾患		月刊細胞 (第 47 巻 14 号)	ニューサイエンス	国内	17-20	2015
堀江義則, 山岸由幸, 海老沼浩利, <u>金井隆典</u>	栄養指導によるアルコール性肝障害の進展予防の提案	アルコール医学 学生物学研究 会 編	アルコールと医学生物学	響文社	国内	27-31	2015
新井万里, 水野慎大, <u>金井隆典</u>	炎症性腸疾患における腸内細菌叢の関与および腸内細菌を標的とした治療への期待		BIO Clinica 12 月号 (第 30 巻 14 号)	北隆館	国内	33-37	2015
清原裕貴, 水野慎大, 長沼誠, <u>金井隆典</u>	炎症性腸疾患；その病態と治療の現状		臨床免疫・アレルギー科 (第 64 巻 4 号)	科学評論社	国内	338-43	2015
<u>金井隆典</u>	腸内細菌 up to date 今まさに明らかになりつつある全身疾患への影響		Pharma Medica 10 月号 (第 33 巻 10 号)	メディカルレビュー社	国内	7-8	2015
堀江義則, 海老沼浩利, 菊池真大, 中本伸宏, <u>金井隆典</u>	本邦におけるアルコール性肝硬変の実態		肝臓 (第 56 巻 7 号)		国内	366-68	2015
堀江義則, 海老沼浩利, <u>金井隆典</u>	本邦におけるアルコール性肝障害の実態		日本消化器病学会雑誌 (第 112 巻 9 号)		国内	1630-1640	2015
森 英毅, 津川 仁, 正岡建洋, <u>金井隆典</u> , 佐谷秀行, 鈴木秀和	CD44v9 陽性胃癌細胞におけるトラストズマブ耐性化獲得機構		G. I Research (第 23 巻 4 号)	先端医学社	国内	90-91	2015
筋野智久, <u>金井隆典</u>	動物モデルの問題点と工夫(2)：炎症性腸疾患モデル		分子消化器病	先端医学社	国内	70-75	2015
中本伸宏, <u>金井隆典</u>	ヒト腸内細菌と消化管疾患		肝胆膵 2015. 6 月号 (第 70 巻 6 号)	株式会社アーケメディア	国内	826-33	2015
堀江義則, 海老沼浩利, 中本伸宏, <u>金井隆典</u>	間接ビリルビン優位の体質性黄疸合併慢性 C 型肝炎に対しベグインターフェロンプラスリバビリンプラスシメプレビル 3 剤併用療法を実施し、横断の増強後に回復を認めた 1 例		「肝臓」第 56 巻 1 号		国内	13-17	2015
清原裕貴, <u>金井隆典</u>	炎症性腸疾患における腸内細菌叢と粘膜免疫の異常	坂口志文	週間 医学のあゆみ (第 253 巻 5 号)	医歯薬出版株式会社	国内	437-44	2015
久松理一, <u>金井隆典</u>	今後炎症性腸疾患の新規治療		日本医師会雑誌 (第 144 巻 1 号)		国内	67-71	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(書 籍)

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
中村志郎, 河合幹夫, 佐藤寿行	潰瘍性大腸炎-急性増悪?それとも感染性腸炎の合併?	久松理一, 矢野智則	実臨床に役立つ IBD 内視鏡-診断・モニタリング・サーベイランス	日本メディカルセンター	東京	250-251	2015
穂苅量太, 三浦総一郎	蛋白漏出性胃腸症	菅野健太郎, 上西紀夫, 小池和郎	消化器疾患最新の治療 2015-2016	南江堂	東京都	194-196	2015
穂苅量太, 三浦総一郎	下剤・浣腸薬	高久史磨監修, 門脇 孝, 乾 賢一, 林 昌洋	治療薬ハンドブック 2015	じほう社	東京都	535-539	2015
Matsui T	Malignancies: colitic cancer and small bowel cancer (intestinal cancer) in IBD	Kim WH	Atlas of inflammatory bowel diseases.	Springer	Korea	187-199	2015
Hirai F, Matsui T	Small bowel endoscopy	Kim WH	Atlas of inflammatory bowel diseases.	Springer	Korea	97-118	2015
松岡克善, 渡辺 守	【生物学的製剤が拓く IBD 診療の新时代】UC における抗 TNF α 抗体製剤とタクロリムスの使い分け	渡辺 守	Mebio	メジカルビュー社	東京	32(8): 14-18, 2015	2015
大塚和朗, 竹中健人, 松沢優, 前田康晴, 小形典之, 林 靖子, 土屋輝一郎, 和田祥城, 福田将義, 長堀正和, 齊藤詠子, 藤井俊光, 松岡克善, 工藤進英, 渡辺守	【診断困難な炎症性腸疾患】潰瘍性大腸炎・Crohn 病の副病変(解説/特集)	松本主之	胃と腸	医学書院	東京	50(7): 907-915	2015
松岡克善, 渡辺 守	【診断困難な炎症性腸疾患】炎症性腸疾患の診断にバイオマーカーは役立つか(解説/特集)	松本主之	胃と腸	医学書院	東京	50(7): 932-934	2015
松岡克善, 渡辺 守	第 6 章 IBD 治療中の特殊ケース 5-ASA アレルギー-特徴的内視鏡所見は存在するのか?	日比紀文, 山本博徳, 久松理一	実臨床に役立つ IBD 内視鏡-診断・モニタリング・サーベイランス	日本メディカルセンター	東京	178-183	2015
松岡克善, 渡辺 守	【炎症性腸疾患-ファーストタッチから長期マネジメントまで】各種治療薬について知っておくべきこと Tacrolimus(解説/特集)	矢島知治	内科	南江堂	東京	116(4): 619-621	2015
小林 拓	「抗 TNF α 抗体製剤二次無効に対する対応」IBD を日常診療で診る			羊土社	東京		2016
小林 拓	「ステロイド抵抗例の次の一手」		IBD 治療薬の選び方・使い方	羊土社	東京		2015
大塚和朗, 竹中健人, 松沢優, 前田康晴, 小形典之, 林 靖子, 土屋輝一郎, 和田祥城, 福田将義, 長堀正和, 齊藤詠子, 藤井俊光, 松岡克善, 工藤進英, 渡辺守	【診断困難な炎症性腸疾患】潰瘍性大腸炎・Crohn 病の副病変(解説/特集)		胃と腸	医学書院	東京	50(7): 907-915	2015
長堀正和	特集: 潰瘍性大腸炎の最適治療と臨床的問題への対策 免疫抑制剤をどう使うか-その治療戦略	桑山 肇	消化器の臨床	ヴァンメディカル	東京	18(4): 357-360	2015
長堀正和	特集 内科プライマリケアのための消化器診療 Update 小腸・大腸疾患 Crohn 病		Medicina	医学書院	東京	52(10): 1718-1721	2015
長堀正和	第 5 章 内視鏡による IBD モニタリング【各論】クローン病 臨床症状と内視鏡所見が一致しない症例(治療強化をどうやって決めるか?)	日比紀文, 山本博徳, 久松理一	実臨床に役立つ IBD 内視鏡-診断・モニタリング・サーベイランス	日本メディカルセンター	東京	151-153	2015
Kenji Watanabe	Colitic cancer	Manabu Muto, Kenshi Yao, Yasushi Sano	Atlas of Endoscopy with Narrow Band Imaging	Springer	Tokyo	324-327	2015
渡辺憲治, 野口篤志, 鎌田紀子	クローン病の小腸病変は内視鏡的モニタリングが必要か?	日比紀文, 山本博徳, 久松理一, 矢野智則	実臨床に役立つ IBD 内視鏡	日本メディカルセンター	東京	246-247	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yoshimura N, Yokoyama Y, Matsuo K, Takahashi H, Iwakiri R, Yamamoto T, Nakagawa T, Fukuchi T, Motoya S, Kunisaki R, Kato S, Hirai F, Ishiguro Y, Tanida S, Hiraoka S, Mitsuyama K, Ishihara S, Tanaka S, Otaka M, Osada T, Kagaya T, <u>Suzuki Y</u> , Nakase H, Hanai H, Watanabe K, Kashiwagi N, Hibi T	An open-label prospective randomized multicenter study of intensive versus weekly granulocyte and monocyte apheresis in active crohn's disease	BMC Gastroenterol	15(1)	163	2015
Naganuma M, Aoyama N, <u>Suzuki Y</u> , Nishino H, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Hibi T	Twice-daily budesonide 2mg foam induces complete mucosal healing in patients with distal ulcerative colitis	J Crohns Colitis	Epub ahead		2015
Fuyuno Y, Yamazaki K, Takahashi A, Esaki M, Kawaguchi T, Takazoe M, Matsumoto T, Matsui T, Tanaka H, Motoya S, <u>Suzuki Y</u> , Kiyohara Y, Kitazono T, Kubo M	Genetic characteristics of inflammatory bowel disease in a Japanese population	J Gastroenterol	in press		2015
<u>Suzuki Y</u> , Matsui T, Ito H, Ashida T, Nakamura S, Motoya S, Matsumoto T, Sato N, Ozaki K, Watanabe M, Hibi T	Circulating Interleukin 6 and Albumin, and Infliximab Levels Are Good Predictors of Recovering Efficacy After Dose Escalation Infliximab Therapy in Patients with Loss of Response to Treatment for Crohn's Disease: A Prospective Clinical Trial	Inflamm Bowel Dis	21(9)	2114-22	2015
Aiba Y, Yamazaki K, Nishida N, Kawashima M, Hitomi Y, Nakamura H, Komori A, Fuyuno Y, Takahashi A, Kawaguchi T, Takazoe M, <u>Suzuki Y</u> , Motoya S, Matsui T, Esaki M, Matsumoto T, Kubo M, Tokunaga K, Nakamura M	Disease susceptibility genes shared by primary biliary cirrhosis and Crohn's disease in the Japanese population	J Hum Genet	60(9)	525-31	2015
Takayuki Yamamoto, Antonino Spinelli, Yasuo <u>Suzuki</u> , Rogerio Saad-Hossne, Fabio Vieira Teixeira, Idblan Carvalho de Albuquerque, Rodolfo Nunes da Silva, Ivan Folchini de Barcelos, Ken Takeuchi, Akihiro Yamada, Takahiro Shimoyama, Lorete Maria da Silva Kotze, Matteo Sacchi, Silvio Danese and Paulo Gustavo Kotze	Risk factors for complications after ileocolonic resection for Crohn's disease with a major focus on the impact of preoperative immunosuppressive and biologic therapy: A retrospective international multicentre study	United European Gastroenterology Journal	in press		2015
Ryota Iwasa, Akihiro Yamada, Koji Sono, Ryuichi Furukawa, Ken Takeuchi, Yasuo <u>Suzuki</u>	C-reactive protein levels at 2 weeks following initiation of infliximab induction therapy predicts outcomes in patients with ulcerative colitis: a 3 year follow-up study	J. Gastroenterol	15	103	2015
Kotze PG, Yamamoto T, Danese S, <u>Suzuki Y</u> , Teixeira FV, de Albuquerque IC, Saad-Hossne R, de Barcelos IF, da Silva RN, da Silva Kotze LM, Olandoski M, Sacchi M, Yamada A, Takeuchi K, Spinelli A	Direct retrospective comparison of adalimumab and infliximab in preventing early postoperative endoscopic recurrence after ileocaecal resection for crohn's disease: results from the MULTIPER database	J Crohns Colitis	9(7)	541-7	2015
Kobayashi T, <u>Suzuki Y</u> , Motoya S, Hirai F, Ogata H, Ito H, Sato N, Ozaki K, Watanabe M, Hibi T	First trough level of infliximab at week 2 predicts future outcomes of induction therapy in ulcerative colitis—results from a multicenter prospective randomized controlled trial and its post hoc analysis	J Gastroenterol	in press		2015
Takeuchi K, Yamada A, <u>Suzuki Y</u>	[Contribution of computed tomography enterography (CTE) to the diagnosis, follow-up and prognosis of Crohn's disease]	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi	112(7)	1244-50	2015
Kotze PG, Spinelli A, da Silva RN, de Barcelos IF, Teixeira FV, Saad-Hossne R, de Albuquerque IC, Olandoski M, da Silva Kotze LM, <u>Suzuki Y</u> , Yamada A, Takeuchi K, Sacchi M, Yamamoto T	Conventional Versus Biological Therapy for Prevention of Postoperative Endoscopic Recurrence in Patients With Crohn's Disease: an International, Multicenter, and Observational Study	Intest Res	13(3)	259-65	2015
Matsuzawa Y, Kawashima T, Kuwabara R, Hayakawa S, Irie T, Yoshida T, Rikitake H, Wakabayashi T, Okada N, Kawashima K, Suzuki Y, Shirai K	Change in serum marker of oxidative stress in the progression of idiopathic pulmonary fibrosis	Pulm Pharmacol Ther	32	1月6日	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yasushi Yoshimatsu, Akihiro Yamada, Ryuichi Furukawa, Koji Sono, Aisaku Osamura, Kentaro Nakamura, Hiroshi Aoki, Yukiko Tsuda, Nobuo Hosoe, Nobuo Takada and Yasuo Suzuki	Effectiveness of probiotic therapy for the prevention of relapse in patients with inactive ulcerative colitis	World Journal of Gastroenterology	21(19)	5985-5994	2015
Suzuki Y, Uchiyama K, Kato M, Matsuo K, Nakagawa T, Kishikawa H, Kimura N, Kasanuki J, Ino S	Potential utility of a new ulcerative colitis segmental endoscopic index combining disease severity and the extent of inflammation	J Clin Gastroenterol	49(5)	401-6	2015
Sakakibara R, Doi H, Sato M, Hirai S, Masaka T, Kishi M, Tsuyusaki Y, Tateno A, Tateno F, Aiba Y, Ogata T, Suzuki Y	Nizatidine ameliorates slow transit constipation in Parkinson's disease	J Am Geriatr Soc	63(2)	399-401	2015
Tanida S, Inoue N, Kobayashi K, Naganuma M, Hirai F, Iizuka B, Watanabe K, Mitsuyama K, Inoue T, Ishigatsubo Y, Suzuki Y, Nagahori M, Motoya S, Nakamura S, Arora V, Robinson AM14, Thakkar RB, Hibi T	Adalimumab for the Treatment of Japanese Patients With Intestinal Behçet's Disease	Clinical Gastroenterology and Hepatology	13(5)	940-8. e3	2015
鈴木康夫	特集:『早期大腸癌』からの20年、『INTESTINE』からの今後20年(炎症分野)【クローン病診療の将来像】	INTESTINE	20(1)	86-90	2016
鈴木康夫	特集:炎症性腸疾患の診断基準と治療 update【潰瘍性大腸炎、クローン病の診断基準 update】	医学と薬学	73	7月14日	2015
鈴木康夫	特集:潰瘍性大腸炎の最適治療と臨床的問題への対策【解消性大腸炎の治療指針と実臨床における治療選択のポイント】	消化器の臨床	18(4)	337-343	2015
鈴木康夫	特集:生物学的製剤が拓くIBD診療新時代【CD二次無効症例への対処療法】	Mebio	32(8)	26-31	2015
新井典岳, 竹内 健, 鈴木康夫	セッション3 臨床医学の進歩1【11.クローン病(CD)の活動性評価における fecal cal-protectin(FC)、小腸内視鏡(BE)、computed tomography(CTE)の有用性】	東邦医学会雑誌	62(2)	141	2015
山田哲弘, 竹内 健, 新井典岳, 岩佐亮太, 石川ルミ子, 鈴木康夫	Cross-sectional imagingによるCrohn病の予後予測に関する検討	Progress of Digestive Endoscopy	86(1)	79-82	2015
鈴木康夫	特集: BIOLOGICSによる自己免疫疾患治療の新時代【炎症性腸疾患】	Mebio	32(5)	59-65	2015
鈴木康夫	特集:炎症性腸疾患診療の最前線【炎症性腸疾患治療前後の評価のための検査】	日本医師会雑誌	144(1)	45-49	2015
鈴木康夫	特集:炎症性腸疾患-病態研究から標的治療への展開-【抗TNF α 抗体製剤の適切な使用法】	最新医学	70(2)	94-99	2015
竹内 健, 鈴木康夫	高齢者の潰瘍性大腸炎における内科治療	IBD Research	3(1)	30-35	2015.3
鈴木康夫	Beyond anti-TNF in IBD treatment	Annual Review 2015		25-30	2015
竹内 健, 山田哲弘, 鈴木康夫	クローン病診療におけるCTによる画像診断の実際-CT enterography-	日本消化器病学会雑誌	112(7)	1244-1250	2015
Nishida A, Hidaka K, Kanda T, Imaeda H, Shioya M, Inatomi O, Bamba S, Kitoh K, Sugimoto M, Andoh A	Increased Expression of Interleukin-36, a Member of the Interleukin-1 Cytokine Family, in Inflammatory Bowel Disease.	Inflamm Bowel Dis	22(2)	303-14	2016
Ohno M, Koyama S, Ohara M, Shimamoto K, Kobayashi Y, Nakamura F, Mitsuru K, Andoh A	Pyoderma Gangrenosum with Ulcerative Colitis Successfully Treated by the Combination of Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis and Corticosteroids	Intern Med	55(1)	25-30	2016
Asada A, Nishida A, Shioya M, Imaeda H, Inatomi O, Bamba S, Kito K, Sugimoto M, Andoh A	NUDT15 R139C-related thiopurine leukocytopenia is mediated by 6-thioguanine nucleotide-independent mechanism in Japanese patients with inflammatory bowel disease	J Gastroenter	51(1)	22-9	2016
Low D, Subramaniam R, Lin L, Aomatsu T, Mizoguchi A, Ng A, DeGruttola AK, Lee CG, Elias JA, Andoh A	Mino-Kenudson M, Mizoguchi E. Chitinase 3-like 1 induces survival and proliferation of intestinal epithelial cells during chronic inflammation and colitis-associated cancer by regulating S100A9	Oncotarget	6(34)	36535-50	2015
Inoue M, Sasaki M, Takaoka A, Kurihara M, Iwakawa H, Bamba S, Ban H, Andoh A	Changes in energy metabolism after induction therapy in patients with severe or moderate ulcerative colitis	J Clin Biochem Nutr	56(3)	215-9	2015
Takaoka A, Sasaki M, Kurihara M, Iwakawa H, Inoue M, Bamba S, Ban H, Andoh A, Miyazaki Y	Comparison of energy metabolism and nutritional status of hospitalized patients with Crohn's disease and those with ulcerative colitis	J Clin Biochem Nutr	56(3)	208-14	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Takahashi K, Fujimoto T, Shioya M, Nishida A, Bamba S, Inatomi O, Imaeda H, Kitoh K, Andoh A	A case of Crohn's disease that developed anti-infliximab and anti-adalimumab antibodies	Clin J Gastroenterol	8(2)	88-91	2015
Kanda T, Nishida A, Takahashi K, Hidaka K, Imaeda H, Inatomi O, Bamba S, Sugimoto M, Andoh A	Interleukin(IL)-36 α and IL-36 γ Induce Proinflammatory Mediators from Human Colonic Subepithelial Myofibroblasts	Front Med (Lausanne)	22(2)	69	2015
Takahashi K, Nishida A, Shioya M, Imaeda H, Bamba S, Inatomi O, Shimizu T, Kitoh K, Andoh A	Interleukin (IL)-1 β Is a Strong Inducer of IL-36 γ Expression in Human Colonic Myofibroblasts	PLoS One	10(11)	e0138423	2015
Hirata Akihiro, Uchino Motoi, Bando Toshihiro, Hirose Kei, Chohnno Teruhiro, Horio Yuki, Nakamura Shiro, Hida Nobuyuki, Hori Kazutoshi, Tomita Naohiro, Takahashi Yoshiko, Takesue Yoshio, Ikeuchi Hiroki	Long-term outcomes and sex differences after restorative proctocolectomy in pediatric patients with ulcerative colitis	Journal of Pediatric Surgery	in press		2015
Kimura Hideaki, Takahashi Kenichi, Futami Kitaro, Ikeuchi Hiroki, Tatsumi Kenji, Watanabe Kazuhiro, Maeda Kiyoshi, Watadani Yusuke, Nezu Riichiro, Kameyama Hitoshi, Nakao Sayumi, Kurachi Kiyotaka, Hotokezaka Masayuki, Otsuka Koki, Watanabe Toshiaki, Ozawa Heita	Has widespread use of biologic and immunosuppressant therapy for ulcerative colitis affected surgical trends? Results of a questionnaire survey of surgical institutions in Japan	Surgery Today	in press		2015
Nakatsuji Masato, Minami Manabu, Seno Hiroshi, Yasui Mika, Komekado Hideyuki, Higuchi Sei, Fujikawa Risako, Nakanishi Yuki, Fukada Akihisa, Kawada Kenji, Sakai Yoshiharu, Kita Toru, Libby Peter, Ikeuchi Hiroki, Yokode Masayuki, Chiba Tsutomu	EP4 Receptor-Associated Protein in Macrophages Ameliorates Colitis and Colitis-Associated Tumorigenesis	PLoS Genet	10(11)	Published online	2015
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Hirose Kei, Hirata Akihiro, Chohnno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Takahashi Yoshiko, Takesue Yoshio, Hida Nobuyuki, Hori Kazutoshi, Nakamura Shiro	Clinical features of refractory pouchitis with penetrating lesions and the efficacy of infliximab treatment for patients with ulcerative colitis after restorative proctocolectomy	Digestion	92	147-155	2015
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Hirose Kei, Hirata Akihiro, Chohnno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Takahashi Yoshiko, Takesue Yoshio, Hida Nobuyuki, Hori Kazutoshi, Nakamura Shiro	Does pre-operative multiple immunosuppressive therapy associate with surgical site infection in surgery for ulcerative colitis?	Digestion	92	121-129	2015
Nakurai Chiaki, Osawa Kayo, Akiyama Minami, Matsubara Nagahide, Ikeuchi Hiroki, Yamano Tomoki, Hirota Seiichi, Tomita Naohiro, Usami Makoto, Kido Yoshiaki	Expression of <i>AKR1C3</i> and <i>CNN3</i> as markers for detection of lymph node metastases in colorectal cancer	Clinical and Experimental medicine	15(3)	333-341	2015
Hiejima Eitaro, Kawai Tomoki, Nakase Hiroshi, Tsuruyama Tatsuki, Morimoto Takeshi, Yasumi Takahiro, Taga Takashi, Kanegane Hirokazu, Hori Masayuki, Ohmori Katsuyuki, Higuchi Takeshi, Matsuura Minoru, Yoshino Takuya, Ikeuchi Hiroki, Kawada Kenji, Sakai Yoshiharu, Kitazume Mina, Hisamatsu Tadakazu, Chiba Tsutomu, Nishikomori Ryuta, Heike Toshio	Reduced Numbers and Proapoptotic Features of Mucosal-associated Invariant T Cells as a Characteristic Finding in Patients with Inflammatory Bowel Disease	Inflammatory Bowel Diseases	21(7)	1529-1540	2015
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Matsuoka Hiroki, Bando Toshihiro, Hirose Kei, Hirata Akihiro, Chohnno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Yokoyama Yoko, Nakamura Shiro, Nakamura Yoko, Takesue Yoshio	Surgery for severe ulcerative colitis during pregnancy: Report of Two cases	Case Reports in Gastroenterology	9	74-80	2015
池内浩基, 内野 基, 松岡宏樹, 坂東俊宏, 広瀬 慧, 平田晃弘, 蝶野晃弘, 佐々木寛文	下部消化管：炎症からの発癌【炎症発癌の治療】大腸外科治療の工夫	INTESTINE	19(4)	405-409	2015
池内浩基	【炎症性腸疾患診療の最前線】内科医に知ってほしい炎症性腸疾患外科治療のタイミング	日本医師会雑誌	144(1)	61-65	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
池内浩基	炎症性腸疾患に対する外科治療の現状	兵庫県外科医会会誌	49	5-11	2015
池内浩基	【炎症性腸疾患外科治療の最近の動向】潰瘍性大腸炎の外科治療	日本外科学会雑誌	116(2)	109-113	2015
内野 基, 松岡宏樹, 坂東俊宏, 広瀬慧, 平田晃弘, 蝶野晃弘, 佐々木寛文, 池内浩基	潰瘍性大腸炎に対する肛門温存手術後の問題－回腸囊炎の現状と対策－	兵医大医会誌	39(2)	53-58	2015
Yoko Yokoyama, Kenji Watanabe, Hiroaki Ito, Masakazu Nishishita, Koji Sawada, Yusuke Okuyama, <u>Kazuichi Okazaki</u> , Hisao Fujii, Hiroshi Nakase, Tsutomu Masuda, Ken Fukunaga, Akira Andoh, Shiro Nakamura	Factors associated with treatment outcome, and long-term prognosis of patients with ulcerative colitis undergoing selective depletion of myeloid lineage leucocytes: a prospective multicenter study	International Society for Cellular Therapy		1-9	2015
Shigeyuki Kawa · <u>Kazuichi Okazaki</u> · Kenji Notohara · Mamoru Watanabe · Tooru Shimosegawa · Study Group for Pancreatitis Complicated with Inflammatory Bowel Disease organized by The Research Committee for Intractable Pancreatic Disease (Chairman: Tooru Shimosegawa) and The Research Committee for Intractable Inflammatory Bowel Disease (Chairman: Mamoru Watanabe), both of which are supported by the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan	Autoimmune pancreatitis complicated with inflammatory bowel disease and comparative study of type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis	J Gastroenterol	50	805-815	2015
Takahiko Toyonaga, Hiroshi Nakase, Satoru Ueno, Minoru Matsuura, Takuya Yoshino, Yusuke Honzawa, Ayako Itou, Kazuyoshi Namba, Naoki Minami, Satoshi Yamada, Yorimitsu Koshikawa, Toshimitsu Uede, Tsutomu Chiba, <u>Kazuichi Okazaki</u>	Osteopontin Deficiency Accelerates Spontaneous Colitis in Mice with Disrupted Gut Microbiota and Macrophage Phagocytic Activity	PLOS ONE	DOI: 10.1371	1-16	2015
Satoko Ohfujii, Wakaba Fukushima, Kenji Watanabe, Satoshi Sasaki, Hirokazu Yamagami, Masakazu Nagahori, Mamoru Watanabe, Yoshio Hirota, <u>for the Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis</u>	Pre-Illness Isoflavone Consumption and Disease Risk of Ulcerative Colitis: A Multicenter Case-Control Study in Japan	PLOS ONE	Vol.9	1-10	2015
Naganuma M, Hisamatsu T, Matsuoka K, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Mori K, Nanki K, Ohno K, Mutaguchi M, Mizuno S, Bessho R, Nakazato Y, Hosoe N, Inoue N, Iwao Y, <u>Ogata H</u>	Endoscopic Severity Predicts Long-Term Prognosis in Crohn's Disease Patients with Clinical Remission	Digestion.	93(1)	66-71	2016
Naganuma M, Hosoe N, Kanai T, <u>Ogata H</u>	Recent trends in diagnostic techniques for inflammatory bowel disease	Korean J Intern Med.	30(3)	271-8	2015
Hosoe N, Naganuma M, <u>Ogata H</u>	Current status of capsule endoscopy through a whole digestive tract	Dig Endosc.	27	205-15	2015
Umeno J, Hisamatsu T, Esaki M, Hirano A, Kubokura N, Asano K, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Shimamura K, Hosoe N, Ogata H, Watanabe T, Aoyagi K, Ooi H, Watanabe K, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Iida M, Yao T, Hibi T, Kosaki K, <u>Kanai T</u> , Kitazono T, Matsumoto T	A Hereditary Enteropathy Caused by Mutations in the SLC02A1 Gene, Encoding a Prostaglandin Transporter	PLoS Genet	11(11)	e1005581	2015
Nanki K, Mizuno S, Naganuma M, <u>Kanai T</u>	Inflammatory bowel disease and the intestinal microbiota	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi	112(11)	1947-55	2015
Hisamatsu T, Wada Y, <u>Kanai T</u>	Inflammatory bowel disease and bone decreased bone mineral density	Clin Calcium	25(11)	1639-44	2015
Hisamatsu T, Ono N, Imaizumi A, Mori M, Suzuki H, Uo M, Hashimoto M, Naganuma M, Matsuoka K, Mizuno S, Kitazume MT, Yajima T, Ogata H, Iwao Y, Hibi T, <u>Kanai T</u>	Decreased Plasma Histidine Level Predicts Risk of Relapse in Patients with Ulcerative Colitis in Remission	PLoS One	10(10)	e0140716	2015
Tang C, Kamiya T, Liu Y, Kadoki M, Kakuta S, Oshima K, Hattori M, Takeshita K, <u>Kanai T</u> , Saijo S, Ohno N, Iwakura Y	Inhibition of Dectin-1 Signaling Ameliorates Colitis by Inducing Lactobacillus-Mediated Regulatory T Cell Expansion in the Intestine	Cell Host Microbe	18(2)	183-97	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Takayama T, Okamoto S, Hisamatsu T, Naganuma M, Matsuoka K, Mizuno S, Bessho R, Hibi T, <u>Kanai T</u>	Computer-Aided Prediction of Long-Term Prognosis of Patients with Ulcerative Colitis after Cytoapheresis Therapy	PLoS One	10(6)	e0131197	2015
Kashiwagi I, Morita R, Schichita T, Komai K, Saeki K, Matsumoto M, Takeda K, Nomura M, Hayashi A, <u>Kanai T</u> , Yoshimura A	Smad2 and Smad3 Inversely Regulate TGF- β Autoinduction in Clostridium butyricum-Activated Dendritic Cells	Immunity	43(1)	65-79	2015
Naganuma M, Hosoe N, <u>Kanai T</u> , Ogata H	Recent trends in diagnostic techniques for inflammatory bowel disease	Korean J Intern Med	30(3)	271-8	2015
<u>Kanai T</u> , Mikami Y, Hayashi A	A breakthrough in probiotics: Clostridium butyricum regulates gut homeostasis and anti-inflammatory response in inflammatory bowel disease	Journal of Gastroenterology	50(9)	928-39	2015
Sakuraba A, Okamoto S, Matsuoka K, Sato T, Naganuma M, Hisamatsu T, Iwao Y, Ogata H, <u>Kanai T</u> , Hibi T	Combination therapy with infliximab and thiopurine compared to infliximab monotherapy in maintaining remission of postoperative Crohn's disease	Digestion	91(3)	233-8	2015
Naganuma M, Hisamatsu T, <u>Kanai T</u> , Ogata H	Magnetic resonance enterography of Crohn's disease	Expert Rev Gastroenterol Hepatol	9(1)	37-45	2015
Matsuoka K, <u>Kanai T</u>	The gut microbiota and inflammatory bowel disease	Semin Immunopathol	37(1)	47-55	2015
Wada Y, Hisamatsu T*, Naganuma M, Matsuoka K, Okamoto S, Inoue N, Yajima T, Kouyama K, Iwao Y, Ogata H, Hibi T, Abe T, and <u>Kanai T</u>	Risk Factors for Decreased Bone Mineral Density in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Disease: A Cross-Sectional Study	Clin Nutr	34(6)	1202-9	2015
杉田 昭, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木 了, 黒木博介, 山田恭子, 荒井勝彦, 福島恒男	クローン病に合併した小腸癌の外科治療	INTESTEINE	19(4)	399-404	2015
黒木博介, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木 了, 山田恭子, 荒井勝彦, 福島恒男, 杉田 昭	直腸切断術後に小腸と会陰創間に瘻孔を形成したクローン病 8 例の検討	日本消化器外科学会雑誌	48(6)	541-548	2015
小金井一隆, 杉田 昭	Crohn 病の狭窄病変に対する狭窄形成術	日本外科学会雑誌	116(3)	183-184	2015
杉田 昭, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木 了, 黒木博介	Colitic cancer/dysplasia の早期発見のために Strategy for early detection of colitic cancer	日本臨牀	73(4)	284-290	2015
杉田 昭	潰瘍性大腸炎治療の最近の動向	日本外科学会雑誌	116(2)	99-103	2015
Minami N, Yoshino T, Matsuura M, Koshikawa Y, Yamada S, Toyonaga T, Madian A, Honzawa Y, Nakase H	Tacrolimus or infliximab for severe ulcerative colitis: short-term and long-term data from a retrospective observational study	BMJ Open Gastroenterol	2	e000021	2015
Toyonaga T, <u>Nakase H</u> , Ueno S, Matsuura M, Yoshino T, Honzawa Y, Itou A, Namba K, Minami N, Yamada S, Koshikawa Y, Uede T, Chiba T, Okazaki K	Osteopontin Deficiency Accelerates Spontaneous Colitis in Mice with Disrupted Gut Microbiota and Macrophage Phagocytic Activity	PLoS One	10	e0135552	2015
Yoshino T, Matsuura M, Minami N, Yamada S, Honzawa Y, Kimura M, Koshikawa Y, Madian A, Toyonaga T, <u>Nakase H</u>	Efficacy of Thiopurines in Biologic-Naive Japanese Patients With Crohn's Disease: A Single-Center Experience	Intest Res	13	266-273	2015
Yamada S, Yoshino T, Matsuura M, Kimura M, Koshikawa Y, Minami N, Toyonaga T, Honzawa Y, <u>Nakase H</u>	Efficacy and Safety of Long-Term Thiopurine Maintenance Treatment in Japanese Patients With Ulcerative Colitis	Intest Res	13	250-258	2015
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Hirose Kei, Hirata Akihiro, Chohn Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Takahashi Yoshiko, Takesue Yoshio, Hida Nobuyuki, Hori Kazutoshi, <u>Nakamura Shiro</u>	Clinical Features of Refractory Pouchitis with Penetrating Lesions and the Efficacy of Infliximab Treatment for Patients with Ulcerative Colitis after Restorative Proctocolectomy	Digestion	92(3)	147-155	2015
Suzuki Yasuo, Matsui Toshiyuki, Ito Hiroaki, Ashida Toshifumi, <u>Nakamura Shiro</u> , Motoya Satoshi, Matsumoto Takayuki, to Noriko, Ozaki Kunihiro, Watanabe Mamoru, Hibi Toshifumi	Circulating Interleukin 6 and Albumin, and Infliximab Levels Are Good Predictors of Recovering Efficacy After Dose Escalation Infliximab Therapy in Patients with Loss of Response to Treatment for Crohn's Disease: A Prospective Clinical Trial	Inflammatory bowel diseases	21(9)	2114-2122	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Hirose Kei, Hirata Akihiro, Chohnno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Takahashi Yoshiko, Takesue Yoshio, Hida Nobuyuki, Hori Kazutoshi, Nakamura Shiro	Does Pre-Operative Multiple Immunosuppressive Therapy Associate with Surgical Site Infection in Surgery for Ulcerative Colitis	Digestion	92(3)	121-129	2015
Yokoyama Yoko, Watanabe Kenji, Ito Hiroaki, Nishishita Masakazu, Sawada Koji, Okuyama Yusuke, Okazaki Kazuichi, Fujii Hisao, Nakase Hiroshi, Masuda Tsutomu, Fukunaga Ken, Andoh Akira, Nakamura Shiro	Factors associated with treatment outcome, and long-term prognosis of patients with ulcerative colitis undergoing selective depletion of myeloid lineage leucocytes: a prospective multicenter study	Cytherapy	17(5)	680-688	2015
Tanida Satoshi, Inoue Nagamu, Kobayashi Kiyonori, Naganuma Makoto, Hirai Fumihito, Iizuka Bunei, Watanabe Kenji, Mitsuyama Keiichi, Inoue Takuya, Ishigatsubo Yoshiaki, Suzuki Yasuo, Nagahori Masakazu, Satoshi Motoya, Nakamura Shiro, Arora Vipin, Robinson Anne M, Thakkar Roopal B, Hibi Toshifumi	Adalimumab for the Treatment of Japanese Patients With Intestinal Behcet's Disease	Clinical Gastroenterology and Hepatology	13	940-948	2015
中村志郎, 樋田信幸, 飯室正樹, 横山陽子, 木田裕子	ステロイド	内科	116(4)	609-614	2015
中村志郎, 堀 和敏, 樋田信幸, 飯室正樹, 宮寄孝子, 横山陽子, 上小鶴孝二, 高川哲也, 河合幹夫, 佐藤寿行, 木田裕子, 間島行則	抗 TNF- α 抗体製剤をどう使うか-その治療戦略	消化器の臨床	18(4)	361-368	2015
中村志郎, 宮寄孝子, 樋田信幸, 飯室正樹	UC に対する抗 TNF α 抗体の治療効果	Mebio	32(8)	4-11	2015
樋田信幸, 佐藤寿行, 中村志郎	IBD 治療中どのような呼吸器感染症に注意を払うべきか	IBD Research	9(2)	25-29	2015
中村志郎	炎症性腸疾患診療の最前線 粘膜治癒の定義とその臨床的意義	日本医師会雑誌	144(1)	33	2015
Suzuki K1, Higuchi H1, Shimizu S1, Nakano M1, Serizawa H1, Morinaga S1	Endoscopic snare papillectomy for a solitary Peutz-Jeghers-type polyp in the duodenum with ingrowth into the common bile duct: Case report	World J Gastroenterol	26	8215-20	2015
Hirata E1, Shimizu S, Umeda S, Kobayashi T, Nakano M, Higuchi H, Serizawa H, Iwasaki N, Morinaga S, Tsunematsu S	Hepatocyte nuclear factor 1 α -inactivated hepatocellular adenomatosis in a patient with maturity-onset diabetes of the young type 3: case report and literature review	NihonShokakibyogakkaiZasshi	9	1696-704	2015
小林 拓(北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター), 中野雅, 齊藤詠子, 豊永貴彦, 日比紀文	【炎症性腸疾患-ファーストタッチから長期マネジメントまで】 炎症性腸疾患の診断 病型と重症度の判定(解説/特集)	内科	116(4)	565-568	2015
小林 拓(北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター), 中野雅, 日比紀文	【内科プライマリケアのための消化器診療 Update】 小腸・大腸疾患 潰瘍性大腸炎(解説/特集)	Medicina	52(10)	1714-1716	2015
加藤裕佳子(北里大学北里研究所病院 消化器内科), 芹澤 宏, 梅田智子, 中野雅, 小林 拓, 清水清香, 常松令, 渡辺憲明, 土本寛二	経皮内視鏡的胃瘻造設術に関する意識調査からみた適応判断の問題点(原著論文)	在宅医療と内視鏡治療	19(1)	70-77	2015
小林 拓(北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター), 中野雅, 日比紀文	【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】(第2章) 消化器 炎症性腸疾患(解説/特集)	内科	115(6)	956-959	2015
中野雅, 小林 拓, 加藤麻由子, 和田由加利, 森ただえ, 柴田順子, 芹澤宏, 長沼 誠, 石橋とよみ, 梅田智子, 渡辺憲明, 日比紀文	炎症性腸疾患患者におけるモビプレップの受容性、有効性、安全性の検討	Gastroenterological Endoscopy	57	820	2015
日比紀文, 久松理一, 小林 拓, 中野雅, 井上 詠	腸管ペーチェット病と単純性潰瘍の診断法や治療法は確立したか?	分子消化器病	12(1)	43-48	2015
日比紀文, 小林 拓, 中野雅, 渡辺憲明	腸疾患-病態研究から標的治療への展開- 日本から世界に発信する新しい診断・治療	炎症性最新医学	270(2)	106-111	2015
桑原絵里加, 西脇祐司	【炎症性腸疾患診療の最前線】診療に役立つ炎症性腸疾患の疫学知識	日本医師会雑誌	144(1)	19-22	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Sato H, Tamura C, Narimatsu K, Shimizu M, Takajyo T, Yamashita M, Inoue Y, Ozaki H, Furuhashi H, Maruta K, Yasutake Y, Yoshikawa K, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Nagao S, Miura S, Shinmoto H, <u>Hokari R</u>	Magnetic resonance enterocolonography in detecting erosion and redness in intestinal mucosa of patients with Crohn's disease	J Gastroenterol Hepatol	30(4)	667-73	2015
Narimatsu K, Higashiyama M, Kurihara C, Takajo T, Maruta K, Yasutake Y, Sato H, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Nagao S, Miura S, <u>Hokari R</u>	Toll-like receptor (TLR) 2 agonists ameliorate indomethacin-induced murine ileitis by suppressing the TLR4 signaling	J Gastroenterol Hepatol	30(11)	1610-1617	2015
Watanabe C, Komoto S, Tomita K, <u>Hokari R</u> , Tanaka M, Hirata I, Hibi T, Kaunitz JD, Miura S	Endoscopic and clinical evaluation of treatment and prognosis of Cronkhite-Canada syndrome: a Japanese nationwide survey	J Gastroenterol. 2015 Jul 28	in press		
Tomita K, <u>Hokari R</u>	Gut Microbiota and Internal Diseases: Update Information. Topics: III. NASH/NAFLD and gut microbiota	Nihon Naika Gakkai Zasshi	104(1)	48-56	2015
Suzuki Y, <u>Matsui T</u> , Ito H, Ashida T, Nakamura S, Motoya S, Matsumoto T, Sato N, Ozaki K, Watanabe M, Hibi T	Circulating interleukin 6 and albumin, and infliximab levels are good predictors of recovering efficacy after dose escalation infliximab therapy in patients with loss of response to treatment for Crohn's disease: A prospective clinical trial	Inflamm Bowel Dis	21(9)	2114-2122	2015
Ueki T, Kawamoto K, Otsuka Y, Minoda R, Maruo T, Matsumura K, Noma E, Mitsuyasu T, Otani K, Aomi Y, Yano Y, Hisabe T, <u>Matsui T</u> , Ota A, Iwashita A	Prevalence and clinicopathological features of autoimmune pancreatitis in Japanese patients with inflammatory bowel disease	Pancreas	44	434-440	2015
Hirai F, <u>Matsui T</u>	Status of food intake and elemental nutrition in patients with Crohn's disease	Integr Food Nutr Metab	2	148-150	2015
Beppu T, Ono Y, <u>Matsui T</u> , Hirai F, Yano Y, Takatsu N, Ninomiya K, Tsurumi K, Sato Y, Takahashi H, Ookado Y, Koga A, Kinjo K, Nagahama T, Hisabe T, Takaki Y, Yao K	Mucosal healing of ileal lesions is associated with long-term clinical remission after infliximab maintenance treatment in patients with Crohn's disease	Dig Endosc	27	73-81	2015
Sato Y, <u>Matsui T</u> , Yano Y, Tsurumi K, Okado Y, Matsushima Y, Koga A, Takahashi H, Ninomiya K, Ono Y, Takatsu N, Beppu T, Nagahama T, Hisabe T, Takaki Y, Hirai F, Yao K, Higashi D, Futami K, Washio M	Long-term course of Crohn's disease in Japan: Incidence of complications, cumulative rate of initial surgery, and risk factors at diagnosis for initial surgery	J Gastroenterol Hepatol	30	1713-9	2015
Tanaka S, Kashida H, Saito Y, Yahagi N, Yamano H, Saito S, Hisabe T, Yao T, Watanabe M, Yoshida M, Kudo SE, Tsuruta O, Sugihara K, Wayanabe T, Saitoh Y, Igarashi Y, Igarashi M, Toyonaga T, Ajioka Y, Ichinose M, <u>Matsui T</u> , Sygita A, Sugano K, Fujimoto K, Tajiri H	JGES guidelines for colorectal endoscopic submucosal dissection/endoscopic mucosal resection	Dig Endosc	27(4)	417-434	2015
Hirai F, Watanabe K, Matsumoto T, Iimuro M, Kamata N, Kubokura N, Esaki M, Yamagami H, Yano Y, Hida N, Nakamura S, <u>Matsui T</u>	Patients' assessment of adalimumab self-injection for Crohn's disease: a multicenter questionnaire survey (The PEARL survey)	Hepatogastroenterology	61	1654-60	2014
Mitsuyama K, Niwa M, Masuda J, Yamasaki H, Kuwaki K, Takedatsu H, Kobayashi T, Kinjo F, Kishimoto K, <u>Matsui T</u> , Hirai F, Makiyama K, Ohba K, Abe H, Tsubouchi H, Fujita H, Maekawa R, Yoshida H, Sata M, The Kyushu ACP group	Possible diagnostic role of antibodies to Crohn's disease peptide (ACP): results of a multicenter study in a Japanese cohort	J Gastroenterol	49	683-691	2014
Yoshida N, Hisabe T, Hirose R, Ogiso K, Inada Y, Konishi H, Yagi N, Naito Y, Aomi Y, Ninomiya K, Ikezono G, Terasawa M, Yao K, <u>Matsui T</u> , Itoh Y	Improvement in the visibility of colorectal polyps by using blue laser imaging	Gastrointest Endosc	82(3)	543-549	2014
Takenaka N, Ohtsuka K, Kitazume Y, Nagahori M, Fujii T, Saito E, Fujioka T, <u>Matsuoka K</u> , Naganuma M, Watanabe M	Correlation of the endoscopic and magnetic resonance scoring systems in the deep small intestine in Crohn's disease	Inflammatory bowel disease	21(8)	1832-8	2015
<u>Matsuoka K</u> , Saito E, Fujii T, Takenaka K, Kimura M, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M	Tacrolimus for the Treatment of Ulcerative Colitis	Intest Res	13(3)	219-226	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yoshimura N, Watanabe M, Motoya S, Tominaga K, <u>Matsuoka K</u> , Iwakiri R, Watanabe K, Hibi T	Safety and Efficacy of AJM300, an Oral Antagonist of $\alpha 4$ Integrin, in Induction Therapy for Patients with Active Ulcerative Colitis	Gastroenterology	149(7)	1775-1783	2015
Nagaishi T, Watabe T, Jose N, Tokai A, Fujii T, <u>Matsuoka K</u> , Nagahori M, Ohtsuka K	Epithelial NF- κ B Activation in Inflammatory Bowel Diseases and Colitis-associated Carcinogenesis. (in press)	Digestion		(in press)	
大塚和朗, 竹中健人, 長堀正和, 松岡克善, 藤井俊光, 齊藤詠子, 渡辺 守	【下部消化管:炎症からの発癌】 炎症発癌の診断 小腸のサーベイランス	Intestine	19(4)	381-384	2015
Fuyuno Y, Yamazaki K, Takahashi A, Esaki M, Kawaguchi T, Takazoe M, <u>Matsumoto T</u> , Matsui T, Tanaka H, Motoya S, Suzuki Y, Kiyohara Y, Kitazono T, Kubo M	Genetic characteristics of inflammatory bowel disease in a Japanese population. A genome-wide association study	J Gastroetnerol	E-pub		2015
Suzuki Y, Matsui T, Ito H, Ashida T, Nakamura S, Motoya S, <u>Matsumoto T</u> , Sato N, Ozaki K, Watanabe M, Hibi T	Circulating interleukin 6 and albumin, and infliximab levels are good predictors of recovering efficacy after dose escalation infliximab therapy in patients with loss of response to treatment for Crohn's disease. A prospective clinical trial	Inflammatory Bowel Dis	21	2114-2122	2015
Aiba Y, Yamazaki K, Nishida N, Kawashima M, Hitomi Y, Nakamura H, Komori A, Fuyuno Y, Takahashi A, Kawaguchi T, Takazoe M, Suzuki Y, Motoya S, Matsui T, Esaki M, <u>Matsumoto T</u> , Kubo M, Tokunaga K, Nakamura M	Disease susceptibility genes shared by primary biliary cirrhosis and Crohn's disease in the Japanese population	J Human Genet	60	525-531	2015
<u>Matsumoto T</u> , Yanai S, Toya Y, Nakamura S	Internet-orientated assessment of QOL and actual treatment status in Japanese patients with inflammatory bowel disease. The 3I survey	J Crohns Colitis	9	477-482	2015
Sato S, Chiba T, Nakamura S, <u>Matsumoto T</u>	Serial changes in cytokine profile of patients with ulcerative colitis treated with infliximab	J Gastroenterol Hepatol	30	1467-1472	2015
Yamamoto K, Chiba T, <u>Matsumoto T</u>	Effect of anti-TNF- α antagonists on oxidative stress in patients with Crohn's disease	World J Gastroenterol	21	10208-10214	2015
Asano K, Esaki M, Umeno J, Hirano A, Maehata Y, Moriyama T, Nakamura S, <u>Matsumoto T</u> , Kitazono T	Contribution of susceptibility variants at FCGR2A and 13q12 to the risk of relapse among Japanese patients with ulcerative colitis	J Gastroenterol	50	1094-1102	2015
Hata K, Kazama S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Tanaka J, Tanaka T, Nishikawa T, Yamaguchi H, Ishihara S, Sunami E, Kitayama J, <u>Watanabe T</u>	Laparoscopic Surgery for Ulcerative Colitis: review of the literature	Surgery Today	45(8)	933-8	2015
Hata K, Ishihara S, <u>Watanabe T</u>	Successful Surveillance Colonoscopy for Patients with Ulcerative Colitis After Ileorectal Anastomosis	J Crohns Colitis	9(10)	937-8	2015
Hata K, Kishikawa J, Anzai H, Shinagawa T, Kazama S, Ishii H, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Tanaka J, Tanaka T, Nishikawa T, Otani K, Yasuda K, Yamaguchi H, Ishihara S, Sunami E, Kitayama J, <u>Watanabe T</u>	Surveillance colonoscopy for colitis-associated dysplasia and cancer in ulcerative colitis patients	Dig Endosc	Epub ahead		
Obayashi N, <u>Arai K</u> , Nakano N, Mizukami T, Kawai T, Yamamoto S, Shimizu H, Nunoi H, Shimizu T, Tang J, Onodera M	Leopard Skin-like Colonic Mucosa: A Novel Endoscopic Finding of Chronic Granulomatous Disease-Associated Colitis	J Pediatr Gastroenterol Nutr	62(1)	56-59	2016
Kawai T, <u>Arai K</u> , Harayama S, Nakazawa Y, Goto F, Maekawa T, Tamura E, Uchiyama T, Onodera M	Severe and Rapid Progression in Very Early-Onset Chronic Granulomatous Disease-Associated Colitis	J Clin Immunol	35(6)	583-588	2015
<u>Arai K</u> , Funayama R, Takahashi M, Sakai R, Shimizu H, Obayashi N, Matsui A	Validation of predictive equations for resting energy expenditure in Japanese pediatric Crohn's disease patients: preliminary study	Pediatr Int	57(2)	290-294	2015
Jimbo K, <u>Arai K</u> , Kobayashi I, Matsuoka K, Shimizu H, Yanagi T, Kubota M, Ohtsuka Y, Shimizu T, Nakazawa A	Isolated Autoimmune Enteropathy Associated With Autoantibodies to a Novel 28-kDa Duodenal Antigen	J Pediatr Gastroenterol Nutr	60(3)	e17-19	2015
<u>Iizuka M</u> , Itaba M, Sagara S	Metabolic syndrome as a risk factor for nonalcoholic fatty liver disease	Medical J Akita Red Cross Hosp	3	22-24	2015

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yoshimura N(1), Yokoyama Y(2), Matsuoka K(3), Takahashi H(4), Iwakiri R(5), Yamamoto T(6), Nakagawa T(7), Fukuchi T(8), Motoya S(9), Kunisaki R(10), Kato S(11), Hirai F(12), <u>Ishiguro Y</u> (13), Tanida S(14), Hiraoka S(15), Mitsuyama K(16), Ishihara S(17), Tanaka S(18), Otaka M(19), Osada T(20), Kagaya T(21), Suzuki Y(22), Nakase H(23), Hanai H(24), Watanabe K(25), Kashiwagi N(26), Hibi T(27)	An Open-Label Prospective Randomized Multicenter Study of Intensive versus Weekly Granulocyte and Monocyte Apheresis in Active Crohn's Disease	BMC Gastroenterol	15(1)	163	2015
Kawa S, Okazaki K, Notohara K, Watanabe M, Shimosegawa T; Study Group for Pancreatitis Complicated with Inflammatory Bowel Disease organized by The Research Committee for Intractable Pancreatic Disease (Chairman: Tooru Shimosegawa) and The Research Committee for Intractable Inflammatory Bowel Disease (Chairman: Mamoru Watanabe)	Autoimmune pancreatitis complicated with inflammatory bowel disease and comparative study of type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis	J Gastroenterol	50(7)	805-15	2015
<u>大藤さとこ</u>	【炎症性腸疾患－病態研究から標的治療への展開－】 発症に関与するリスク因子解明	最新医学	70(2)	195-204	2015
Kakuta Y, Naito T, Onodera M, Kuroha M, Kimura T, Shiga H, Endo K, Negoro K, Kinouchi Y, Shimosegawa T	NUDT15 R139C causes thiopurine-induced early severe hair loss and leukopenia in Japanese patients with IBD	Pharmacogenomics J			2015
<u>Kobayashi T</u> , Suzuki Y, Motoya S, Hirai F, Ogata H, Ito H, Sato N, Osaki K, Watanabe M, Hibi T	First trough level of infliximab at week 2 predicts future outcomes of induction therapy in ulcerative colitis—results from a multicenter prospective randomized controlled trial and its post-hoc analysis	J Gastroenterol			2015
<u>小林 拓</u> , 中野 雅, 日比紀文	内科疾患の診断基準・病型分類・重症度 第2章 消化器 「炎症性腸疾患」	内科	115(6)	956-958	2015
<u>小林 拓</u> , 中野 雅, 日比紀文	内科プライマリケアのための消化器診療 Update 小腸・大腸疾患「潰瘍性大腸炎」	Medicina	52(10)	1714-1716	2015
<u>小林 拓</u>	「マレーシアにおける IBD の現状と課題」	IBD Research	9(3)	24-25	2015
<u>小林 拓</u> , 豊永貴彦, 齊藤詠子, 中野雅, 日比紀文	「IBD チーム医療における医師(消化器医)の役割」	IBD Research	9(4)	6-10	2015
加藤裕佳子(北里大学北里研究所病院 消化器内科), 芹澤 宏, 梅田智子, 中野 雅, <u>小林 拓</u> , 清水清香, 常松 令, 渡辺憲明, 土本寛二	経皮内視鏡的胃瘻造設術に関する意識調査からみた適応判断の問題点(原著論文)	在宅医療と内視鏡治療	19(1)	70-77	2015
<u>小林 拓</u> (北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター), 中野雅, 日比紀文	【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】(第2章)消化器 炎症性腸疾患(解説/特集)	内科	115(6)	956-959	2015
日比紀文, 久松理一, <u>小林 拓</u> , 中野雅, 井上 詠	腸管バーチエット病と単純性潰瘍の診断法や治療法は確立したか?	分子消化器病	12(1)	43-48	2015
日比紀文, <u>小林 拓</u> , 中野 雅, 渡辺憲明	腸疾患-病態研究から標的治療への展開- 日本から世界に発信する新しい診断・治療	炎症性最新医学	270(2)	106-111	2015
Tanida S, Mizoshita T, Nishie H, Ozeki K, Katano T, Kubota E, Kataoka H, Kamiya T, <u>Joh T</u>	Combination Therapy with Adalimumab plus Intensive Granulocyte and Monocyte Adsorptive Apheresis in patients with refractory ulcerative colitis	J Clin Med Res	7(11)	884-889	2015
Tanida S, Mizoshita T, Ozeki K, Tsukamoto H, Mori Y, Kubota E, Kataoka H, Kamiya T, <u>Joh T</u>	The first case of biological therapy discontinuation after a complete remission induced by maintenance therapy with adalimumab for refractory ulcerative colitis	J Clin Med Res	7(2)	118-121	2015
Tanida S, Mizoshita T, Ozeki K, Katano T, Kataoka H, Kamiya T, <u>Joh T</u>	Advances in refractory ulcerative colitis treatment: A new therapeutic target, Annexin A2	World J Gastroenterol	21(29)	8776-8786	2015
Tanida S, Ozeki K, Mizoshita T, Tsukamoto H, Katano T, Kataoka H, Kamiya T, <u>Joh T</u>	Managing refractory Crohn's disease: challenges and solutions	Clin Exp Gastroenterol	10	131-140	2015
Kawaguchi T, Mori M, Saito K, Suga Y, Hashimoto M, Sako M, Yoshimura N, Uo M, Danjo K, Ikenoue Y, Oomura K, Shinozaki J, Mitsui A, Kajiura T, Suzuki M, <u>Takazoe M</u>	Food antigen-induced immune responses in Crohn's disease patients and experimental colitis mice	J Gastroenterol	50(4)	394-405	2015